

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
理科	化学	4	一斉	理系	3

教科書（発行所）	化学 academia（実教出版）
教科書以外の教材	1 サイエンスビュー化学総合資料（実教出版） 2 実践アクセス総合化学（浜島書店） 3 チェック&演習化学（数研出版）

目 標	1 化学や化学現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことができるようにする。 2 化学や化学現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。		
学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期 2章 物質の変化と平衡 1節 化学反応と熱・光エネルギー 2節 化学反応と電気エネルギー 3節 反応の速さとしくみ 4節 化学平衡 3章 無機物質 1節 周期表 2節 非金属元素 3節 典型金属元素 4節 遷移元素 4章 有機化合物 1節 有機化合物の特徴と分類	エネルギーの変換と保存 熱エネルギー ヘスの法則 光エネルギー 電池 電気分解 反応の速さと変える条件 反応のしくみ 化学平衡 平衡移動 電解質水溶液の平衡 水素と貴ガス ハロゲン 16～14族 1、2族 鉄 銅 銀 亜鉛 分離と確認 特徴と分類 構造の決定	中間考查 期末考查
	2 学期 2節 脂肪族炭化水素 3節 酸素を含む脂肪族化合物 4節 芳香族化合物 5章 高分子化合物 1節 高分子化合物 2節 天然高分子化合物 3節 合成高分子化合物 化学の総復習および演習	飽和炭化水素 不飽和炭化水素 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族 窒素を含む芳香族 混合物の分離 高分子化合物の分類と特徴 糖 タンパク質 核酸 合成繊維 プラスチック 機能性高分子化合物 ゴム 共通テスト対策	実力考查 中間考查 卒業考查
	3 学期 化学の総復習および演習	共通テスト対策 二次対策	
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等	1 提出物・宿題は期限をきちんと守る。 2 用語を単独で「暗記」するのではなく、化学現象を全体的な流れの中で「記憶」していく。 3 授業ノートは用いず、配付プリントに書き込む。黒板に書かれないこともメモすること。 4 現象を分析するときは必要に応じ図を描いて可視化して取り組むこと。 5 予習は教科書を読み、プリントの（ ）埋めを行う。授業に集中し、復習をしっかりと行うこと。 6 既学習の内容は、考查において主体的に学習に取り組む態度として一定量の出題をして評価対象とします。		

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
使える	化学や化学現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 化学や化学現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学や化学現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら化学や化学現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方を身に付けている。
できる	化学や化学現象について、他の事項と関連付けて理解している。 学習内容の特質に応じた探究の方法を習得している。	化学や化学現象の中に課題を見だし、解決するための実験計画を立て、その結果を予測している。自らの予測について検証している。	化学や化学現象の中に探究活動の課題を探ろうとする。 化学や化学現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする。
分かる	化学や化学現象の概念を理解するための重要用語と、その用語に関わる知識を身に付けている。 観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	知識・技能を活用して、課題を解決するための方法に気づき、説明している。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。
評価の方法	授業時の観察、定期考查、課題確認テスト（小テスト）、課題レポート、週課題、授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価・自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。		